

チーム

東 中 学 校
女子バレーボール部通信
NO. 212号
3月18日(火)

OG戦・親子バレーを通して

『先輩たちのおかげでここまで上手になれたんだな!』

『家族の人たちの支え・応援がたくさんあるんだな!』

『ボールがつながるってこんなに楽しいことなんだな!』

『やっぱりバレーボールって楽しいな!』

先日の『OG戦・親子バレー』を通して、それぞれに改めて感じたこと・考えたこと、中には新しく感じたり考えたりしたことがあった人もいたかもしれません。たった4時間余りの時間ですが、それぞれにとって忘れられない思い出深い一日になったのではないのでしょうか。

正直、あぁいった雰囲気・練習だけでは強くなる・勝つことは難しいでしょう。しかし、日々の練習をしていく中で、あの時に感じたことや考えたことを忘れてしまっては、いくら技術面が上達しても、肝心の『心』の部分が成長していかないと、成長していかないと思います。当然ながら、心が成長していかないと、強くなる・勝つという点においても限界があります。だからこそ数年前から、中学生に何かを感じてほしいと願い、『世代を超えて、たくさんの方が集える場』ということで、OG戦・親子バレーを同日開催しています。みんなにも今回の経験を通じて感じたこと・考えたことを大事にしてほしいと思います。



【☆礼儀・全力☆】

裏面に今春の選抜甲子園大会に出場する豊川高校の記事を紹介しました。年齢・性別・種目の違いはあれ、先生が大事にしてきたことと重なる部分がたくさんありました。スポーツ・部活動に対しては、いろいろな考え方があります。しかし、やはり先生はこういった『礼儀』『全力』といったことは、いつでもどんな状況でも大切にしていきたいです。



【保護者の皆さんへ】

先日は、OG戦・親子バレーにたくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。子どもたちも普段とは少し違った和やかな雰囲気の中、プレーすることができたと思います。また、『自分たちはたくさんの方に支えられている』ということに改めて実感できた生徒も多かったのではないのでしょうか。

2週間後にはそれぞれ進級し、後輩も入部してくるかと思っています。まずは4ヶ月後の夏の大会に向けてチーム一丸となって取り組んでいきたいと思っています。今後とも、様々な面でお願いをすることもありますが、ご理解頂き、ご協力いただけたらと思います。よろしくお願いします。

礼儀・全力「当たり前」徹底

満開宣言

第86回 選抜高校野球 話題校

4

豊川 (愛知)

を通じて初の甲子園へ臨む。愛知・中京高(現中京大)が大事にしてきたのは人間形成。「誠実な振る舞い」ができない人間が野球を

出場した今井陽一監督(48)と、中京高の同期でアトラクタ五輪銀の森昌彦コーチ(48)が大事にしてきたのは人間形成。「誠実な振る舞い」ができない人間が野球を

大声がグラウンドに響く。「おはようございませう」から始まり、「お話し中失礼します」などの丁寧な言葉遣いを挟み、最後は「お疲れ様でした」で締める。あいさつ練習が終われば、野球練習の始まりだ。創部68年目の豊川が春夏



野球練習前に「あいさつ練習」をする豊川の選手たち

しっかりとできるわけがない」。指導7年目の2人の経験則から来る信念だ。就任時のチームはだらだら歩くなど評判は悪く、練習試合を断られたことも。「まずは実直な人間に。そのうすれば野球への姿勢も変わる」と監督。服をたたむ、お礼を言うなどの当たり前前のことをやる。凡事徹底を浸透させた。攻守交代の全力疾走が評判になるなどしていき、選手獲得にも好影響を生んでいった。「私生活がダメだと結果が出ない。1プレーを大事にするようになった」と選手。打撃や守備位置をより深く考えるなど、きめの細かいプレーを持ち味に小差をものにしていった。準優勝し甲子園を決定づけた秋の東海大会後は更なるパワーアップに励む。1日5、6食を目標におにぎりなどを流し込む日々だ。この冬で約6年増のエイズ右腕の田中空良(新3年)は「球質が重くなった」。従前の小さい曲がりに磨きを掛けつつ、大きく曲がるスライダーにも挑む。下半身が一回り大きくなった打線は柵越えが増えてきた。豊川と言えば全国優勝経験のある駅伝部、水泳部が有名だが「積み重ねた全てをぶつけて野球の豊川を知らしめたい」と氷見泰介(新3年)。新たな歴史を刻むべく闘志を燃やす。(巖本新太郎)